

地盤工学会 関東支部 造成宅地の耐震対策に関する研究委員会（H24 年度活動）
第 7 回議事録（準備委員会含む第 11 回）

日時：平成 24 年 7 月 31 日（火）15：00～17：30

場所：地盤工学会館 地下会議室

出席者：安田委員長、飯沢委員、内山委員、小川（和）委員、小林委員、澤田委員、新坂委員、杉山委員、高田委員、手塚委員、橋本（和）委員、橋本（隆）委員、福田委員、人見委員、松下委員、大林

資料：7-1 議事次第

7-2 議事録案、第 2 章、第 3 章、第 6 章 6.1、6.2、6.3.1、6.3.2、6.3.3、6.3.6、第 7 章 7.2 原稿案、浦安相談会調書（6/23、7/19 分）

7-3 第 5 章原稿案

7-4 第 6 章 6.3.4、6.3.5 原稿案

7-5 第 7 章 7.1 原稿案

議事：

1. 委員長挨拶

・地盤工学会の活動として国交省助成金による「浅層盤状改良」の研究が進められているが、先日 7 月 22 日に香取市でアウトリーチ活動を実施した。約 60 名の市民の参加があり関心の高さを感じた。香取市では沈下修正などの実施が、まだまだこれからであるような状況である。8 月 11 日には神栖市でもアウトリーチ活動を実施する。

・また、国交省の一体的な対策としての市街地液状化対策事業も進みつつあり、いくつかの都市で検討を開始している。

・浦安市の相談会も回を重ねているが、まだまだ住民には市街地液状化対策事業などの中身が伝わっていないようだ。現段階では実現可能性の検討段階であるからかもしれない。

・本研究委員会で作成中の手引書は自治体のこれらの活動において有効になると考えられるので、作業を進めて行きたい。

2. 浦安市建築指導課依頼の相談会について

・6 月 23 日（土）浦安市健康センター、7 月 19 日（木）浦安市堀江公民館で実施した住民相談会の内容を調書にて説明。相談内容、回答について確認。

・今後の対応について、相談員の希望者を募った。今後、日程に合わせて希望があれば参加していただく。

3. 「戸建て住宅の液状化対応に関する手引書」の内容について

2 章、3 章

・想定地震レベルに対する考え方について、L1 については「有害な沈下・傾斜を生じさせない。」とし、L2 については「半壊程度に至らない」とする。

・液状化による被害の推定方法などを示し、対策の必要性判断にいたるプロセスを別途章を設けて記述する。

・第 5 章の次ぎに、新たに章を設け、「液状化による戸建て住宅の沈下・傾斜の推定方法」とする。

5 章

・スウェーデンによる液状化判定について検討が開始されている現状を踏まえて、スウェーデンによるサンプリングなど既発表の最新の知見を盛り込む。

6 章

・各工法のメカニズム、設計法、施工法、効果の評価などが記述されているよう着目して原稿を見直す。

7 章

- ・7.1 に調査の流れを示す。まだ、未確定の事項も多いので、方法論にとどめる。
- ・7.2 についてはメカニズムや設計は6章にて記述されているので、留意事項などをまとめる。

3. 今後のスケジュール

- ・手引書の執筆について

8月27日 本日の委員会結果を受けた修正原稿を幹事まで送付
安田委員長と大林幹事にて全体確認と個別に執筆者への修正依頼
最終詳細目次案を委員各位に配信

9月21日 概ねの最終原稿案をもって委員会開催
査読を実施し、10月末に完成予定

- ・次回委員会

9月21日（火） 9:30～ 地盤工学会館

以上